

研究会シリーズ 現代教育科学の最前線

本シリーズは、専門分野の枠を越えたインターディシプリナリーな議論の場を設けることによって、21世紀の教育学の新たな領域を開拓し、高度教育専門職の基盤となる教養の在り方を探ることを目指します。

プロフェッショナル・セミナー 第1回

話芸から学ぶ説得の技法 - 浪曲と教育の接点を探る -



西洋教育史の歴史を振り返ると、教育という営みは、「話・術」とも言うべきレトリックと密接なつながりをもっていました。教育もレトリックも、たんに話の内容を理路整然と語るだけではその役割を果たしません。聞き手の心を「動かし」、「説得」するためには、語り手と聞き手とのよりダイナミックな関係を構築することが必要です。

このような関心から見た場合、我が国における「話芸」の伝統は、教育学にとって貴重な資源になりうるものです。「演者は聴衆の心をどのようにして『つかむ』のか?」「どのような訓練を経て、一流の芸人に育っていくのか?」「話芸の伝統文化は日本人の言語観や教養にどのような影響を与えてきたのか?」といった問いは、実践志向型教育専門職の養成にとって重要な視点を提起するでしょう。

本研究会では、名古屋と関西を中心に活躍されている浪曲の第一人者、天中軒月子氏、そして浪曲評論家の芦川淳平氏をゲストに招き、本研究科の教育学者との対話を通じて、浪曲と教育の接点を探ります。

日 時: 12月12日(水) 18:00 - 20:30

場 所: 東北大学大学院 教育学研究科・教育学部(文系総合研究棟)11階大会議室

プログラム: 第1部 18:00 - 18:20 「教育と浪曲の接点を求めて」 加藤 守通
「浪曲とは何か」 芦川 淳平
第2部 18:30 - 19:00 浪曲公演 天中軒 月子 (三味線:一風亭 初月)
第3部 19:10 - 20:30 座談会 天中軒 月子 / 芦川 淳平 /
生田 久美子 / 長谷川 啓三 / 加藤 守通

参加自由
無 料